

# 平成25年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

## 1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期に1回(3カ月に1回)実施する。

## 2 調査の概要

### (1) 調査対象

被災した12市町村に居住又は就労している方153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

### (2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

### (3) 調査対象時期

平成25年2月(次回調査は平成25年5月)

### (4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(生活の回復度、3ヵ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度、3ヵ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、3ヵ月間の進捗状況)

### (5) 回収結果

有効回収率 86.9%(133名/153名) <前回 88.9%(平成24年11月)>

### (6) 回答者の属性

#### ①性別

性別	人数	割合
男性	91	68.4%
女性	42	31.6%
不明	0	0.0%

#### ②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	45	33.8%
沿岸南部	88	66.2%
不明	0	0.0%

#### ③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	27	20.3%
40歳代	43	32.3%
50歳代	41	30.8%
60歳以上	22	16.5%
不明	0	0.0%

#### ④住宅被害の有無

市町村別	人数	割合
被災あり	58	43.6%
被害なし	60	45.1%
不明	15	11.3%

#### ⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者)  
54名(40.6%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者)  
36名(27.1%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業、農業の従事者/雇用支援機関、金融機関の関係者)  
43名(32.3%)

#### ■参考■

- 「回復度」又は「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。  
「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町  
沿岸南部とは、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市です。

※ この調査は、調査結果の集計、分析について、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

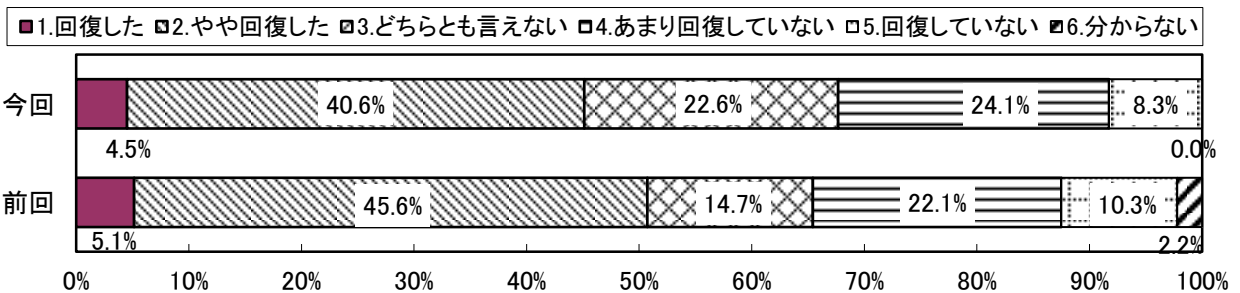
### 3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が4.5%、「やや回復した」が40.6%となり、両者の合計は45.1%であり、「回復した」、「やや回復した」の合計は前回より5.6ポイント下がった。  
 地域別では、沿岸北部、沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった。沿岸北部では37.8%で、前回の結果(48.9%)から11.1ポイント下がり、沿岸南部では42.0%で、前回の結果(43.8%)から1.8ポイント下がった。  
 ○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「やや進んでいる」が33.8%で最も多かった。「進んでいる」、「やや進んでいる」の割合は、37.6%で前回の結果(42.7%)から5.1ポイント下がった。

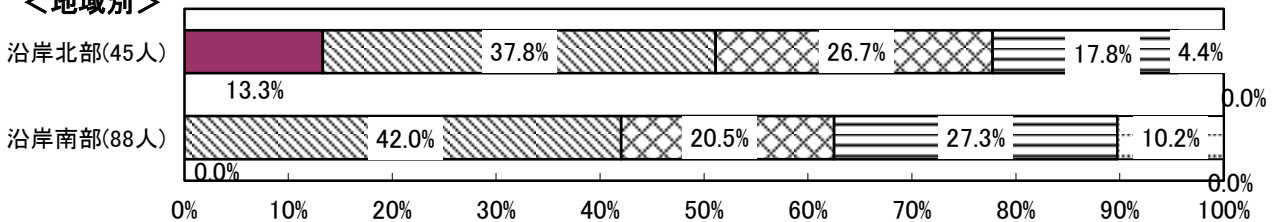
今回の調査では、自力で土地を購入し自宅を再建している人が増えたという肯定的な回答が目立った一方で、高台移転を待たずに自力で土地を探して家を立てる人が出てきたという回答があるなど、住宅再建について、プラス面とマイナス面の両方の見方があり、これにより「どちらとも言えない」とする割合が増加したと考えられる。

#### ① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

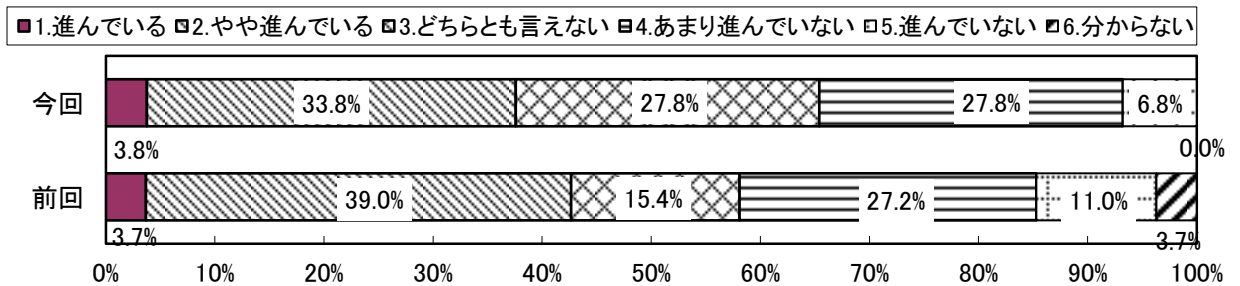


#### <地域別>

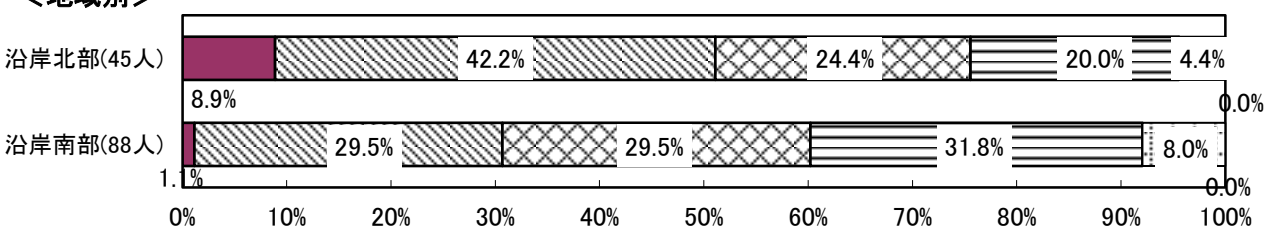


#### ② 3カ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3カ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が仮設からも自立再建新たな地で生活を始めた世帯もある。残る世帯は移転地も決まり、この25年度頑張れば、との話である(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・県や国では高台への集団移転と言いながら、未だに場所が決まらない地区もあり、待ちきれずに自力で家を建てる人が多く見られる(30歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・災害公営住宅も着工され、また、小中学校の移転用地についても見通しがついたことから回復を実感できるようになってきた(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・仮設住宅入居者のメンタルケアが必要。本格的な復興住宅の建設が必要。仮設の受忍限度は2～3年だと感じる(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・周囲の生活はだいぶ落ち着いてきた。職場の近くは空き地があったが、新しい家が次々とでき、大きな工場も少しずつできている(20歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・今後の生活の見通しがかたがたに仮設住宅の方も多いが、自宅を修理して生活している方、新築される方も3ヶ月前より増えている(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「3.どちらとも言えない」の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災以降、大多数の仮設住宅の方々には回復が進んでいない。不自由な生活に多少慣れたようだが、忍耐の日々を強いられている(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・時間が経つに従い回復状況に差が出ている。被災直後は同じ状況でも、回復の波に乗る方々、被災直後と変わらない方々がいる(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・被災者の生活は落ち着いていると思うが、現在も仮設住宅で生活している人が多く、回復しているとは言えない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・新たに土地を購入、住宅建築する方が増えた。最終目標は仮設住宅の完全撤去だが、その間の有効利用も考える必要性を感じる(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・高台移転を待てずに自力で土地を探して家を建てる人が出てきた。災害公営住宅の家賃も高く、それなら家を建てるという声がある(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住環境の整備が進まない。復興住宅への入居に伴い、高齢者の方が家賃の支払いが大変なので行きたくないと言っている(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・個々に自己再建をして仮設住宅から出ていく方が見られるが、高台団地の工事が始まらず、公営住宅や自己再建には程遠い(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・高台移転の説明会はあるが、災害危険区域の指定は3月で、住宅の再建の見通しがかたがた。大部分は復興計画を待っている(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・町による生活設計に関する面談が行われ、仮設住宅から高台移転か公営住宅か希望は取ったが、具体的な説明がなかった(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・住宅移転が決まらない。仮設期限に不安を感じ焦りが見える。高台移転の目処が立たず諦めている人が増えた(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅に住まう家庭でのトラブル。子どもたちは表面上元気に通ってきてはいるが、心のケアに気を遣う日々は続いている(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者  
教育・福祉施設関連:小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者  
産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

### 3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が2.3%、「やや回復した」が40.6%となり、両者の合計は42.9%であり、前回の結果（44.8%）からほぼ横ばいであった。

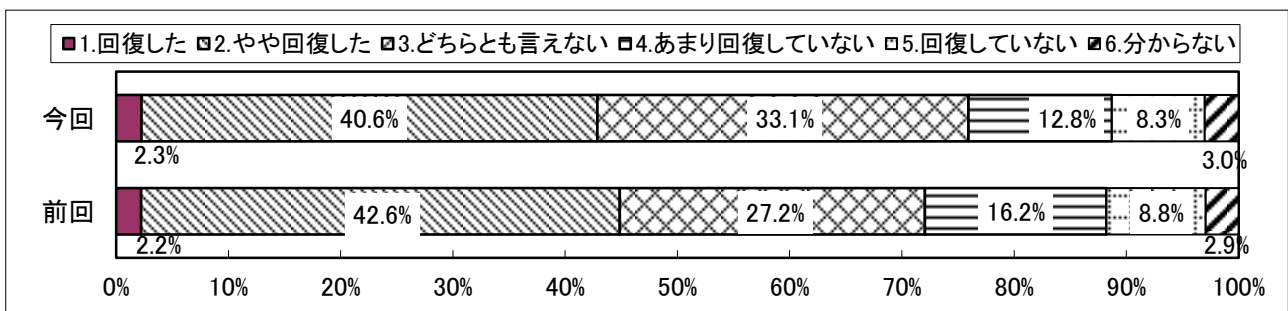
地域別では、沿岸北部、沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった。沿岸北部では46.7%で、前回の結果（42.6%）から4.1ポイント上がり、沿岸南部では37.5%で、前回の結果（42.7%）から5.2ポイント下がった。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況については、「やや進んでいる」の割合が35.3%と最も高かったが、前回の結果（36.8%）から1.5ポイント下がった。また、「あまり進んでいない」、「進んでいない」の合計は27.0%で前回の結果（30.2%）から3.2ポイント下がった。

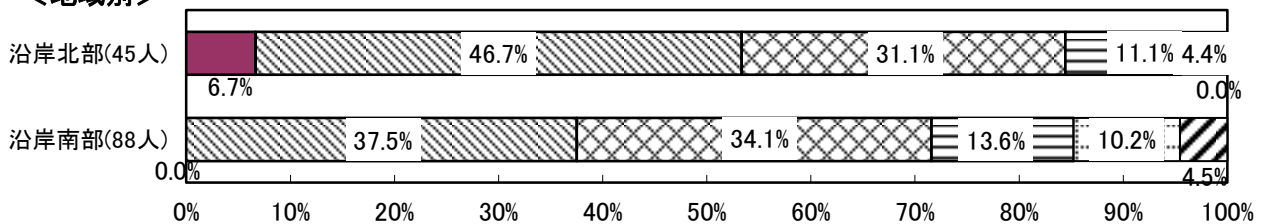
今回の調査では、**漁業や水産加工業の回復を実感している**との肯定的な回答が多かった一方で、**仮設商店街の売上の低下や、本設の商店街再建の見通しが立たない**ことなど、**小売業再建への懸念**を指摘する回答も多く、**業種間での回復の実感に差異**があり、これにより「どちらとも言えない」とする割合が増加したと考えられる。

#### ① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、地域経済は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

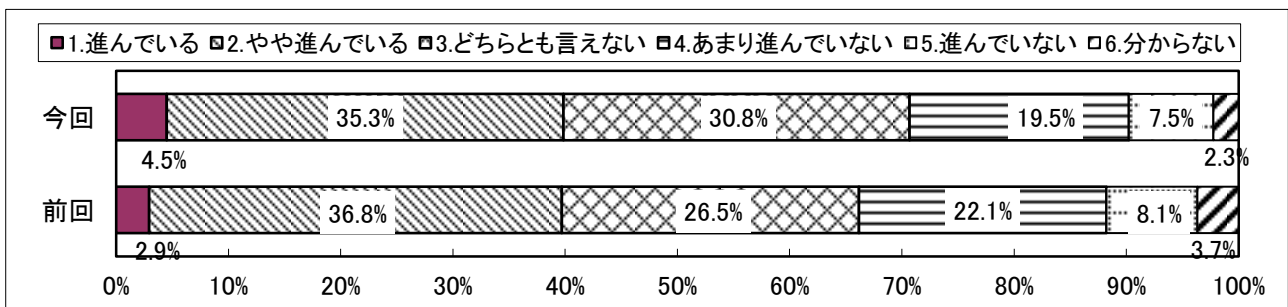


#### <地域別>

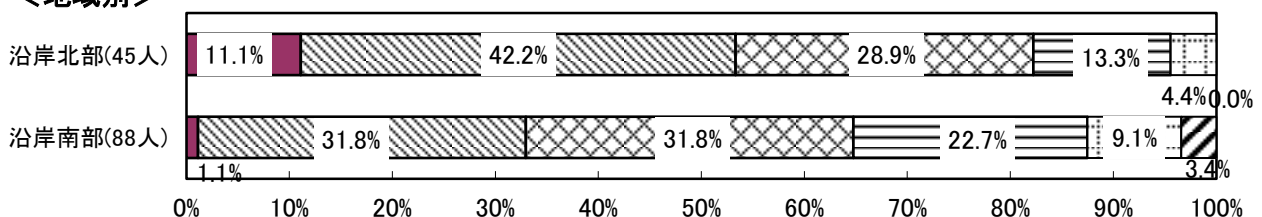


#### ② 3カ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3カ月間程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鮭の不漁により水産関係は厳しいが、地域の基幹産業である建設業が好調で、付随して宿泊や飲食等のサービス業にも波及している(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> </ul>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業のわかめ、アワビ等、やや回復したように感じる。ホテルも昨年再び営業を始めて地域経済に貢献しているように感じる(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・新漁協の誕生により、漁業関連の本格的稼働により、地域経済の活性化が見えてきている感じがする(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・水産業、関連加工業も動き出し、水産加工業の新規参入もあり、回復の兆しが見えてきた。全国から海産物の注文も増えている(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・何か新しい特産品や目玉を作ろうと活気が出てきているように感じる(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・震災前に事業を行っていた同級生の多くが再開するに至っている(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・縦断バイパス道路の建設も進み、ほぼ完成間近となっている。防潮堤の修復も進んでおり、建設関係の仕事に活気を感じている(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・水産加工物等の生産は、確実に以前に近づきつつあるように感じる。湾にいかだが浮かぶようになってきた(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土建業、建設業関係は大変多忙であり、それに伴う臨時の雇用者も恩恵はあるが、地元の事業者とはかなり格差が出てきた(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・漁協に勤めているのでわかめや昆布の注文をさばくのに忙しくはしているが、震災前ほどの忙しさではないような気がする(30歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設商店街は復興支援の売り上げが落ち込んでおり、特需は終了した。大型量販店の進出計画に不安をつのらせる業者も多い(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・店舗を再建し、商売を始めている店が多いが、利用する住民は決して多くない。経済の活性化を支援する行政の後押しが必要(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・地域の経済で職種によって格差が出始めてきている。小売業の方々は以前よりも厳しくなっていると思う(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・水産業は秋鮭の不漁、農林関係もシイタケの価格低迷等、建設・サービス関係以外の業種はまだまだ厳しい状況とを感じる(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設店舗で飲食店をしているが、先の見直しは立たない。仮設を出て、新しく店を作る場所も資金も計画を立てることもできない(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・補助はあるものの自己資金も多額に上り、小型船を諦めた人達がいる。漁業を諦め、がれき処理で生計を立てている人達もいる(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風評被害の影響で魚価が上がらないと漁民は嘆いていた。農作物も放射能の被害で元気がないようだ(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> </ul>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者  
 教育・福祉施設関連 :小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者  
 産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

### 3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「あまり達成していない」が22.6%、「達成していない」が39.8%となり、両者の合計は62.4%で前回(67.6%)から5.2ポイント下がった。

地域別では、沿岸北部、沿岸南部とも、「あまり達成していない」、「達成していない」の合計が依然として高いが、沿岸南部では7割以上となっている一方で、沿岸北部では、初めて過半数を割った。

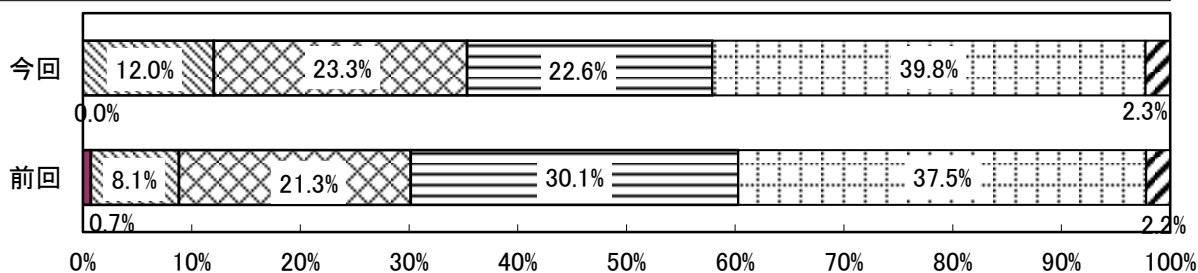
○直近3ヶ月の進捗状況についても、「進んでいない」の割合が最も高く、36.8%と前回の結果(34.6%)から2.2ポイント上がった。

達成度や進捗状況を判断した理由については、防潮堤の復興工事が進展しているとの回答があるが、依然として防波堤や防潮堤の復旧工事が着工されていないという回答が多く、ここまで変わらないと諦めの感情が強くなるという回答もあった。

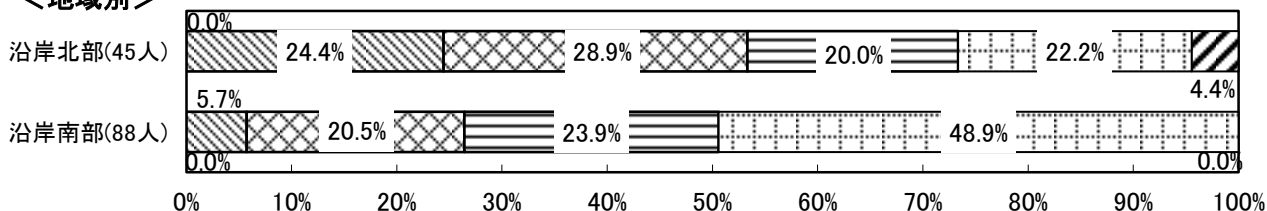
#### ① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

■1.達成した □2.やや達成した □3.どちらとも言えない □4.あまり達成していない □5.達成していない □6.分からない



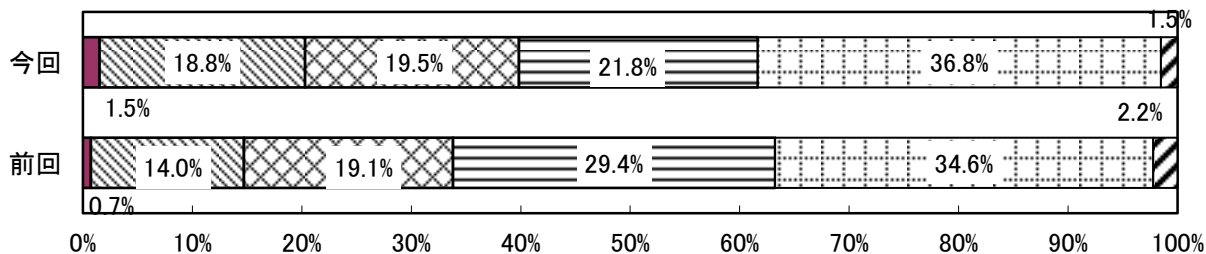
#### <地域別>



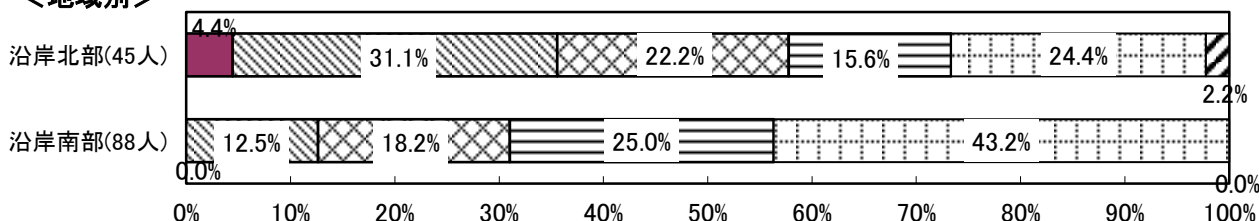
#### ② 3カ月間(概ね12月から2月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月間程度)災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？

■1.進んでいる □2.やや進んでいる □3.どちらとも言えない □4.あまり進んでいない □5.進んでいない □6.分からない



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興道路のトンネルがつながり、今後のトンネル完成に期待が望まれる。沿岸地区の整備も徐々に形が出てきているように感じる(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・防潮堤の復興工事の事に携わっていますが、湾の防潮堤は随分と復興していると思う(60歳以上 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・防潮堤等の修繕は進んでいるが、未だ浸水区域に入ると恐怖感を感じる。確実に避難できる方策、避難訓練を積み重ねる必要がある(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「3.どちらとも言えない」の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防潮堤の修復工事の槌音が毎日朝から響いており、工事は進捗していると思われるが、目に見える変化はないため特に実感はない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・3. 11前には全く気にしなかった注意報に過敏に反応する。仕方がないと感じたり、冷静にならなければと言いつつ聞かせたり、心情的に迷う(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・鉄道工事が始まり復興が加速したが、新政権になり、公共工事が全国で進むと、復興にきている方々が地元に戻り復興が減速する(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードが間に合わないのなら注意報や警報が出たら通行止めにするエリアを明確にし、周知した方が車移動もスムーズになると思う(20歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・国道の復旧工事は行われているが、堤防の工事は進んでいない。堤防の水門も壊れたまま(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・防潮堤に関しては全く進んでいない。今でも壊れた防潮堤はそのまま、地震が来る度に不安になる。高台移転も足踏み状態のまま(20歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・平成24年は復興元年・槌音の聞こえる年に・・・と言いつつながら集団移転地については進んでいない。私達の目に進み具合がわからない(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップや説明会を開いているが、当初の計画通りに決まる。住民の意見は全て無視されて反映されたためしがない(40歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・まだ防波堤や防潮堤が着工されていない。安全なまちづくりには程遠い状態だと思う(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・新県道のルートが発表された。浸水区域に下って現行道路と接続する計画だ。なぜ防災に強い町の道路に。それでよいのか(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・ハードが遅れているので、せめてソフト面での指導が必要があるのにしていない。災害はすぐ来るし、今後の災害は人災になると思う(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・何もかも手付かず、先日の津波注意報で避難場所は食料の用意をしていない。行政は何を考えているかわからない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・現段階でのまちづくり案について住民に発信しても良いのではないと思う(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・道路工事は進んでいるが、それ以外は進んでいるように見えない。もうすぐ2年経つのにここまで変わらないと諦めの感情が強くなる(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者  
 教育・福祉施設関連:小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者  
 産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

平成25年【第1回】  
「いわて復興ウォッチャー調査」  
結果報告書  
(平成25年3月)

発行

平成25年3月27日  
岩手県 復興局 企画課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 (019)-629-6945

ホームページ：いわて復興ネット

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=39696&ik=0&pnp=14>